No.	提　案　名	提案団体名	
		代表者氏名	所　属
10	妖精と宇都宮のまちづくり	**宇都宮大学　国際学部　行政学研究室A**	
		中村　佳代	宇都宮大学　国際学部

指導教員 氏　名	**中村　祐司**

１．　提案の要旨および目標

「うつのみや妖精ミュージアム」（以下、妖精ミュージアム）は、2007 年（平成 19 年）7 月 31 日に二荒山神社に隣接する「うつのみや表参道スクエア」にオープンした。その契機は、本市出身でわが国の妖精研究の第一人者である井村君江氏から、多くの貴重な妖精関係資料の寄贈申し出をいただいたことにある。また、妖精ミュージアムでは妖精資料や妖精を主題に、教育、生涯学習、文化・芸術の振興、まちづくりなどの分野で幅広く市民に活用され、「魅力的で夢育む都市・宇都宮の創造」の実現を目的としている[1]。

そこで本提案では、妖精ミュージアムを妖精のまちの拠点として機能させ、次世代に伝承し、市民の人々にはもちろんのこと市外の人々にも、宇都宮が「妖精のまち」として親しまれるようになることをねらいとする。そのために、妖精ミュージアムについて市民を含む多くの方々に知ってもらうことが最も重要である。また、妖精ミュージアムに人々が集まることによって、妖精に対する興味・関心の増加に繋がり、宇都宮市に妖精のまちとしての文化が根付くことが考えられる。よって、妖精ミュージアムの来場館数増加を促すための具体的な提案を推進する。

近年、妖精ミュージアムでは、妖精について知る機会を与えるため、様々な取り組みがなされている。例えば、そこには「妖精博士の部屋」というものがある。これは、悪い妖精から自分を守るために服を裏返しにするといったような昔話や伝説が宇都宮市の土地に残されているということを表している。

妖精は「生活における安らぎの心」や「相手を思いやる心」などの道徳教育にも結び付くので、目に見えるものを追いかける社会から目に見えないものを心に描き、宇都宮市のまちづくりに貢献すると考えられる。そして、私たちがそれを永遠に語り継ぐことの大切さを認識し、心に映す情景をこの現実の街へ投影することを志す。

[1] うつのみや妖精ミュージアム HP
http://www2.ucatv.ne.jp/~ufairy-m/（最終閲覧日 2010/11/18）

2. 宇都宮市における妖精ミュージアムの現状の分析と課題

1）宇都宮市による妖精のまち事業の現状分析

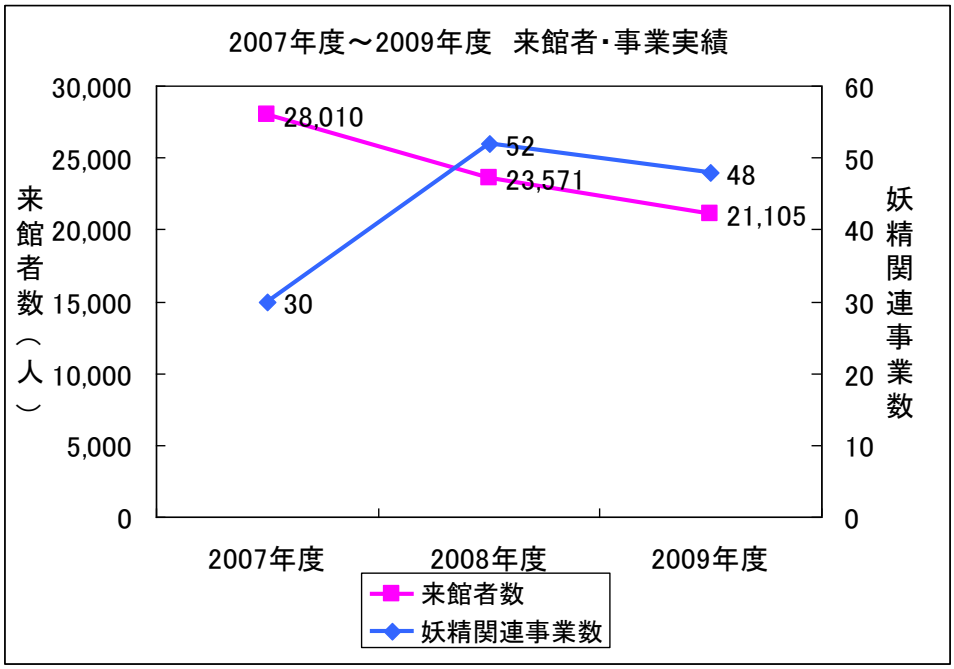
妖精学の第一人者である井村君江氏は宇都宮出身であり、妖精に関する資料を市に寄贈した。資料の寄贈を機に、市は 2004 年（平成 16 年）3 月に「妖精資料活用事業基本計画」、2005 年（平成 17 年）6 月に「妖精のまちづくり戦略と事業戦略」を策定した。

そして、先述したように 2007 年（平成 19 年）7 月 31 日には、宇都宮市の中心市街地にあるうつのみや表参道スクエア 5 階に「妖精ミュージアム」がオープンした。妖精ミュージアムには、井村氏から寄贈された美術品や資料が展示されている。また、妖精に関する絵本などがあり、その場で読むことができる。さらに、仕掛けがある展示物などがあり、幅広い人々に楽しんでもらえる空間である。

妖精ミュージアム内に展示している井村氏からの寄贈品は一部である。現在、多くの資料がミュージアム外に保管されている。書籍については、データーベース化をしている段階で、今後の活用法は未定である。先述したように、妖精ミュージアムでは、子供を対象とした読み聞かせや、市民を対象とした妖精学講座の開催、ワークショップなどの様々なイベントを積極的に行っている。イベントの主催は市で行い、運営は文化ボランティアや妖精の会のスタッフ・加入者で成り立っている。

このように、妖精のまちづくりへの事業が妖精ミュージアムを中心に行われている。現在は、妖精のまちを広める段階にきており、妖精ミュージアムは妖精のまちの拠点として位置づけられている。しかし、妖精ミュージアムの来館者は下のグラフから年々減少していることが分かる。（図 1）

図 1：平成 19 年度から 21 年度における妖精ミュージアムの来場者数と妖精関連事業数の推移



（宇都宮市資料　「妖精のまちづくり」より作成）

2）宇都宮市による妖精のまち事業の課題

このような来館者数の減少の要因として妖精ミュージアムの場所を特定しにくいことが考えられる。

商業施設であるうつのみや表参道スクエア 5 階に位置しているため、商業施設の外側から、施設内に妖精ミュージアムがあることが分かりにくいことが原因として挙げられる。

実際に、施設のフロアガイド（案内）が施設入口にあるが、文字でしか書かれていないため分かりにくいのである。また、妖精ミュージアム独自の看板が設置されているが、通りから見つけづらい位置に設置されている。特に宇都宮駅方面から歩いて来る人々には発見しづらい位置である。(写真 1・2)

妖精ミュージアムに人々が集まらなければ、妖精ミュージアムは妖精のまちの拠点地として機能することができない。そのため、ミュージアムを妖精のまちづくりの拠点とするためにはどうすればよいかが今後の課題として考えられる。

写真 1　うつのみや妖精ミュージアムの看板

写真 2　大通りから見える外観

（出典：2010/10/20
筆者撮影）

3.　うつのみや妖精ミュージアムにおける施策事業の提案

1)　宣伝の強化

①ツイッター[2]の利用

妖精ミュージアムの来場者が増加するためには、まず、中心市街地に人々が集まることが不可欠である。

妖精ミュージアムは中心市街地に存在するため、そこに人々が集まることで、ミュージアムの来館者数の増加が期待できると考えられる。よって、中心市街地により多くの人々を集めるためにツイッターを利用した広報活動を提案する。

2009 年 7 月に北海道陸別町は知名度を向上させるため、ツイッターを始めた。ツイッターを利用して、イベントの PR を事前に行ったところ、イベントには全国から約 7000 人もの観光客を集めた。また、鳥取県米子市では市のキャラクターによるツイッターがあり、このキャラクターがツイッター上で「ふるさと納税」の寄付を PR した[3]。平成 21 年度は 134 人から約 1067 万円集まったが、PR 後の平成 22 年度は 868 人から約 1815 万円集まった。

このように、ツイッターを利用してまちを PR する自治体が増えている。現在、栃木県内では那須烏山市、足利市、小山市がこれを利用している。そこで、ミヤリーちゃんを用いたツイッターの利用を宇都宮市に提案したい。ツイッターでは、主に宇都宮市の観光やイベントの情報を中心につぶやく。そのことにより、全国の人々に宇都宮市に関心を持ってもらうきっかけを作ることができると考える。「ミヤリーちゃん」は妖精をモチーフとした市のキャラクターであるため、「ミヤリーちゃん」を活用することで宇都宮市が妖精のまちであることをイメージしやすくなると考える。(図 2)

図 2　ミヤリーちゃん

宇都宮市のキャラクターである「ミヤリーちゃん」は宇都宮のミヤとフェアリー（妖精）をつけてミヤリーとなっている
（出展：宇都宮市役所 HP）

---

[2]　140 文字以内の短い投稿（つぶやき）を入力して、みんなで共有するサービス。ツイッタツイッターの利用登録をしなくても閲覧することができる。
twitter 公式ナビゲーターhttp://twinavi.jp/guide/section/twitter/step1
（最終閲覧日 2010/11/18）

[3]　「ツイッターで街おこし」2010/04/20 読売新聞
http://www.yomiuri.co.jp/net/report/20100420-OYT8T00428.htm
（最終閲覧日 2010/11/18）

②施設入り口前に目印を設置

中心市街地に人々が集まるだけでは、妖精ミュージアム来館者数の増加には繋がらない。初めて宇都宮に訪れた方々にも一目でわかり、妖精ミュージアムに訪れたいと思うような看板などの目印が必要である。また、うつのみや表参道スクエアの向かい側には宇都宮PARCOがある。この立地条件を活かし、PARCOの行き帰りないし、中心市街地に訪れた市民が気軽に立ち寄りたいと思えるような環境を作ると良いのではないか。そのためには、分かりやすい目印を設置することが重要である。

先述したように、妖精ミュージアム独自の看板が設置されているが、通りから目立たない位置に設置されているため、誰にでも分かるように商業施設入口付近に看板もしくはポスター等を置くことが必要であると考える。

例えば、アイルランドは妖精の国と言われており、「レプラコーン横断注意」という標識が存在する。（写真 3）本当に、妖精が身の回りにいるような気分にさせてくれるユニークな標識である。

写真 3　アイルランドの標識

（出典：OZmall　HP[4]）

このような通りがかった人々に妖精や妖精ミュージアムに興味・関心をもってもらえるような「妖精が集まる場所」「妖精と会える場所」などといったユニークな目印があることで、多くの人々の興味を引き、ミュージアム来館者数の増加を期待できる。ちなみに、現在は下記のようなポスターがあるが（写真 4)、妖精に関するポスターはない。そこで、具体的に「妖精が愉快だ宇都宮」といったポスターの作成をし、宣伝効果をよりいっそう高める。

4 【アイルランド】妖精の国でかなえる、大人ガーリーな旅
http://www.ozmall.co.jp/trip/event/ireland200905/#con02

写真４　ポスター

（出典：2010/10/20 筆者撮影）

2）イベントの開催

もう一つの提案としては、年に１度２日から３日くらいの期間を決め、様々なイベントを行う「妖精の日」を設定することを挙げる。これは子供に限らず、年齢・性別を問わず、多くの人々が妖精に興味・関心を持ってもらうことを目的とする。

実際に、妖精ミュージアムでは毎月、読み聞かせ、ダンス、音楽会、ギャラリー・トークなどの多くのイベントを行っている。しかし、全てが市民対象のイベントであるため、市外の人々にも同じように参加できるようなイベント開催を提案したい。

現在、うつのみや妖精ミュージアムでは館内でイベントが行われている。そこで提案するイベントの実施場所も妖精ミュージアムや市民ギャラリー、同階にある会議室や６階の多目的室を大いに利用すると良いと考える。

「妖精の日」に開催するイベントの具体的な内容は、現在行われている妖精学講座の開催や講演会、ワークショップを行うこととする。ワークショップでは、妖精の女王が好むバラのコサージュといった妖精に関するものを作る。また、市民ギャラリーを利用し、ミュージアムに展示されていない井村氏からの寄贈品の展示、または書籍の開放を行い、資料の有効活用を図る。毎月多目的室では、映画上映が行われていることを受け、「妖精の日」にも妖精をモチーフとした映画の上映会を行う。

3）事業遂行上の課題

現在宇都宮市のイベントの広報は市の広報誌に書かれているが、ツイッターでは広報誌では伝えきれない情報を伝えることができる。さらに、リアルタイムでの情報を伝えるこ

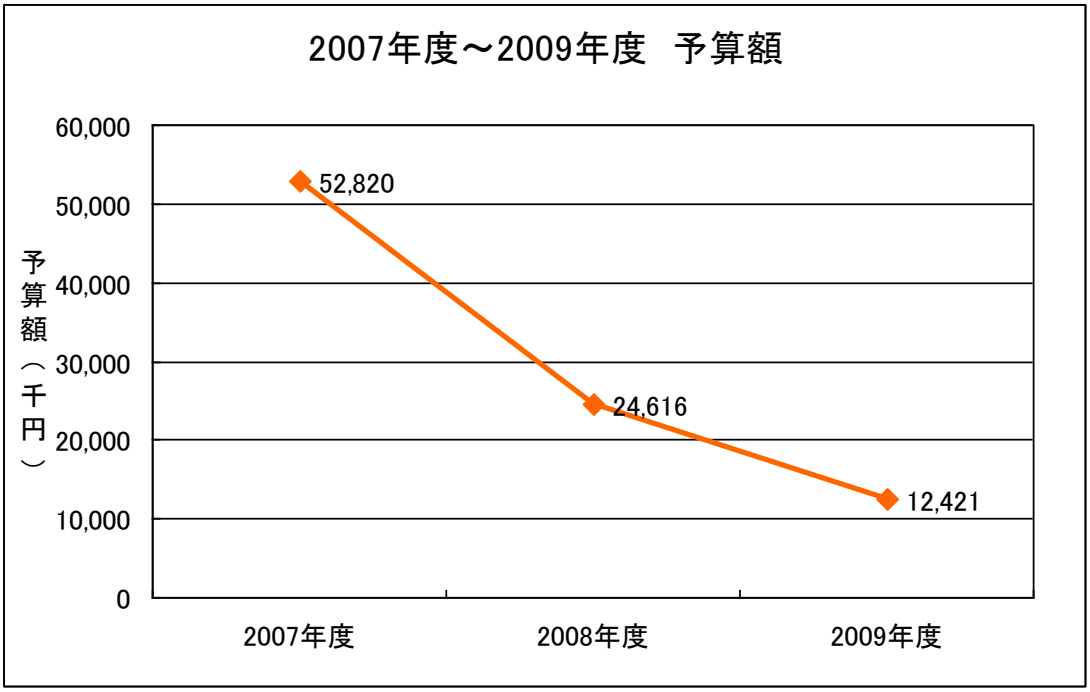
とができるという利点がある。また、広報誌は市民へ向けた市の PR に対して、ツイッターは全国の人々を対称に PR することができる。

しかしインターネットを利用できない人たちはツイッターを見ることができないとうい問題点がある。そのため紙媒体（広報誌）と電子媒体（ツイッター）の両方での広報が必要である。

また、ユニークな目印の設置や「妖精の日」でのイベント開催によって、多くの人々が妖精について興味をもつことが期待される。しかし、これらの提案を遂行する上で問題となるのが資金不足と人手不足である。例えば、商業施設の看板はひと月 10 万程度かかる。これを踏まえると、提案にある目印の設置には費用が掛かると考えられる。また「妖精の日」に行うイベントも、一つひとつに費用が掛かる。「妖精の日」では多くのイベントを一度に行うため、多くの人手が必要と考えられる。現在、イベントを運営しているスタッフは文化ボランティアが中心であるが、その数は 20 名程度である。そのため、一度に多くのイベントを行うためには、現状では人手が足りないため、イベント実施が困難である。

妖精ミュージアムの予算額を見ると、予算額は年々減少傾向にある。（図 3）

図 3　2007 年度～2009 年度の妖精ミュージアムにおける予算額



（宇都宮市資料　「妖精のまちづくり」より作成）

このように、減少している且つ限られた予算内でいかに資金を抑えることができるかを考える必要がある。

4. 今後の「妖精のまちづくり」が発展する可能性

今回の提案を通じ、実際に、宇都宮市に「妖精のまち」としての文化が根付いた暁には以下のようなまちの発展も考えることができる。

例えば「ピーター・パン」に登場するティンカーベルは「もの作り妖精」でなく、「もの直し妖精」であると言われている。この妖精のものを直して大事に使っていくという性質を活かし、宇都宮市で行われている「もったいない運動」に繋げることもできると考える。

宇都宮市に関係する妖精画を一般から募集し、展示会などを行い「妖精のまち」という文化を育むこともできる。

さらには、宇都宮市だけでなく栃木県全体に妖精の文化を広げ、栃木妖精マップを作成することも可能である。栃木妖精マップを作成することで、新たな観光地の発見に繋がる。それにより文化面だけでなく観光面でも「妖精のまち」が発展できる。

妖精のまちづくりは始まったばかりであり、今後の発展の可能性は無限である。

5. 終わりに

宇都宮市に「妖精のまち」という文化を広めていく上では、まず、その拠点となる「うつのみや妖精ミュージアム」をより市民に広めていくことが必要であり、本提案ではそのための具体的な策を展開した。そして、妖精ミュージアムを次世代に伝承し、市民の人々にはもちろんのこと、市外の人々にも宇都宮市が「妖精のまち」として親しまれるようになることを期待する。

宇都宮市民に妖精を知ってもらう機会を提供することが妖精のまちづくりの原点である。また、餃子やカクテル、ジャスなどのまちづくりと共に、「もっと愉快なまち宇都宮」を創ることができる。その結果、宇都宮市が多くの人々に親しまれ、魅力ある街となると考える。

○参考資料

・　うつのみや妖精ミュージアム（最終閲覧日 2010/11/16）
http://www2.ucatv.ne.jp/~ufairy-m/

・twitter 公式ナビゲーターhttp://twinavi.jp/guide/section/twitter/step1

・読売新聞 2010/04/20「ツイッターで街おこし」（最終閲覧日 2010/11/15）
http://www.yomiuri.co.jp/net/report/20100420-OYT8T00428.htm

・宇都宮市役所 HP　（最終閲覧日　2010/11/08）
http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/gaiyo/symbol/004569.html

・【アイルランド】妖精の国でかなえる、大人ガーリーな旅（最終閲覧日　2010/11/15）
http://www.ozmall.co.jp/trip/event/ireland200905/#con02

・宇都宮市資料「妖精のまちづくり」